

1.本園の教育方針 ～人からしてほしいことをしてあげられるひかりの子どもになりました～

(1) カトリックの愛の精神に基づき道德教育を行う。

(2) 教育の第一責任者である両親に協力し、助成するための教育に力を注ぐ。

(3) 集団生活の体験を通して、共同生活と神から賜与された成長の法則に従って自ら感性しようとする幼児の自主自立を助け調和のある精神を養う。

2.本年度の重点敵に取り組み目標・表内赤字

3.評価項目の達成及び取り組み状況

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

重点的に取り組む目標	評価項目	評価指標及び評価結果				総括評価	コメント 評価結果に関する説明・意見等	
		基準	取組指標	取組結果	基準			成果指標
園内研修の充実を図るため、園内研修の充実を図る	園内研修を継続的に実施し保育の見直しや改善に生かす	4	月に1回以上園内研修を行い、お互いの保育を見合い、課題を見つけ、改善する。	2.9	4	10の姿を考えながら、互いの保育の良い点や課題を、分かち合い改善するようになった	A 3	・園内研修を毎月行うことを意識したことは良かった。研修を通して教師間の意見を分かち合えてよかった。 ・園内研修が、月に1回行えないこともあったが、雰囲気や内容も良かった ・先生方の考え方や、保育を見ることで、新たな学びもあったが、それを保育に生かし切れない部分もあった。 ・研修で学んだことで、見直し、課題を分かち合うことはできたが、実践したあとの振り返りができていなかった。
		3	毎月園内研修を行い、保育の中で実践する		3	園内研修での学んだことを実践し、結果をほかの保育者と話すようになった		
		2	2か月に1回園内研修を行い分かち合う		2	園内研修での学びを通して自分の保育を見直すようになった		
		1	学期に1回園内研修を行う		1	園内研修での学びを記録している		
伸び伸びと育ち合う子どもたちが伸び伸びと意欲的に遊ぶ保育の展開	子どもたちが伸び伸びと意欲的に遊ぶ保育の展開	4	園外保育に月に2回以上行く機会を設ける	2.9	4	友だち同士で、新しい遊びを考え出し、遊びが充実したりするようになった	A 3.6	・教師が一緒に戸外に出て遊ぶということは、個人によって差が出ているように感じる。 ・自由遊びだけでなく、活動と活動の間に、戸外遊びを入れる等の保育計画の見直しが必要である。 ・日誌を書く際に振り返り、子どもたちがどんな遊びをしているか、捉えることはできた。 ・様々な運動遊びの発展や、環境構成の継続が不十分で見直しができない
		3	子どもたちがどのような遊びに興味関心を持ってしているか捉え計画的に運動遊びを取り入れる		3	子どもたちが様々な運動遊びに挑戦するようになり、遊びを楽しむようになった		
		2	戸外(広い場所)で遊ぶ時間を取り、どのような遊びを行っているか記録をとり、環境構成を見直す		2	子どもたちが身体を動かし、伸び伸びと好きな遊びを楽しむようになった		
		1	教師が一緒に進んで戸外に出る		1	子どもたちが戸外で遊ぶようになった		

重点的に取り組む目標	評価項目	評価指標及び評価結果				総括評価	コメント 評価結果に関する説明・意見等	
		基準	取組指標	取組結果	基準			成果指標
子どもたちが健康を意図しながら、保育の展開	感染予防のために必要な習慣や意識を身に付ける指導の工夫	4	視覚教材等を作り、分かりやすく生活習慣の見直しができる保育を取り入れる	3.9	4	感染予防の話をしたり、友だち同士で声をかけ合ったり、健康を気をつける行動を進んでするようになった	A 3.9	・園内研修で教師間で感染予防の伝え方や、視覚教材の分かち合いができ、子どもたちにわかりやすく伝えることができるようになった。 ・手洗い、消毒に関しては、個人差が大きいため、全体に伝えるだけでなく、より子どもたちを個人的に見る必要があると感じた。 ・今後も現状を報告し合い、確認し合うことができたらよい
		3	感染予防のために環境を見直し教師間で共通理解する		3	子どもが自分の健康状態について保育者に話すようになり、健康に関する意識を持つようになった		
		2	手洗い・消毒の必要性を折に触れて伝えたり、保育者がモデルを示したりする		2	消毒やうがい、手洗いを自ら進んでするようになった		
		1	丁寧に視診を行い、幼児の健康状態を把握する		1	言葉かけにより、進んで手洗い・うがい換気に気を付けるようになった		

○総合的な評価結果と今後の課題

評価・・・A

・教師の質の向上のために保育を振り返り、園内研修の充実を図るでは、毎月意識をして、園内研修を行い、その中で、教師間の分かち合いができたことで、学びを深めることが出来た。また、教師間で、保育を見合うことは1学期のみ行うことができた。今後もこの機会を作ることが出来るよう検討していく。  
・伸び伸びと育ちあう子どもでは、朝の自由遊びの時だけではなく、1日の保育の中での戸外遊びを取り入れ方等、保育計画の見直しを検討する。

・子どもたちが健康を意図しながら生活できる保育の展開では、コロナ禍の中で、特に感染予防のために必要な習慣や意識を身に付ける指導の工夫を行うこと学校関係者評価委員の評価

運動会など、コロナ禍の中でお手伝いが今までのようにはできなかったが、コロナ前のように父母の会での手伝いを協力できることがあれば、子どもたちをまんなかにおいて、協力していきたい。また、OBにも声をかけ、地域として、子どもたちの成長を見守ることができるとよいと思う。運動会や生活発表会等の行事や、日々の保育の中で、先生たちが、すぐに手助けをするのではなく、子どもの中で、お互いに気付き合っ育ち合う姿が見られている。この相手